

2002年度OB通信 Vol. 1

2002年7月発行

発行者：〒753-0841 山口市吉田 1677-1

山口大学体育会ワンダーフォーゲル部 OB会事務局

URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/>

E-mail tabidori@yamaguchi-u.ac.jp

はじめに

山口にも本格的な夏が到来し、例年と変わらず暑い日が続いておりますが、OBの皆様方はいかがお過ごしでしょうか。現役部員にとっては最大の行事である夏合宿を成功させるため、夏の暑さに負けることなく、涼しいアルプスを思い浮かべてトレーニングやミーティングをがんばって行っているようです。

さて、今年の4月に2002年度OB会がスタートし、昨年度事務局長を務められました崎間公久氏と佐伯英敬氏の後任といたしまして、今年度は私、藤井祐介（農学部 本部前主将）が事務局を担当させていただくこととなり、工学部前主将の原和義にも事務局の手助けをしてもらっています。学生二人がOB会にどれだけ貢献できるかわかりませんが、がんばっていこうと思いますので、何かと行き届かないところはあるかと思いますが、御指導、御鞭撻のほどよろしく願いいたします。

昨年度は会則の正式な承認もされ、OB会としてしっかりとした組織になりつつあります。会則にあります通り、

会費を払われないと会員資格を失い、再度会費納入があるまでOB通信が発送されなくなりますのでご注意ください（詳しくは中をご覧ください）。

また、今年東京で開かれるOB総会についても書かれておりますのでご覧になってください。

なお、OB会についてなにかご意見、ご質問等ありましたら、上記のメールアドレスでも下記の連絡先でもご連絡よろしく申し上げます。

OB会会長

末国 弘司

OB会副会長

木山 克彦

事務局

藤井 祐介

工学部代表

原 和義

1 2001年度OB会活動報告

会長、副会長をはじめ多くのOBの方々の協力によって、2001年度OB会も無事終了するに至りました。大変感謝しております。また、事務局の不手際でご迷惑をおかけしたOBの方々にはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

さて、2001年度のOB総会で

- ・ 工学部、本部OB会の統合
- ・ OB会会則

が決定され、OB会の地盤も固まってきたように思います。暫定OB会東京支部（今年度10月5日の東京でのOB総会で正式に承認されたいとのこと）でも在京部員の方々の活動が盛んに行われており、2002年度OB総会は首都圏で開催されるなど、いよいよ新OB会が動き出したといえるでしょう。

また、1年間運営してきたホームページは7月1日現在約14000HITを超えました。2年前のOB総会で提案されたときの“OBからの情報と現役からの情報のやり取りをリアルタイムにできるようにする”という目的を徐々に達成しつつあると思います。さらに、山口大学ワンダーフォーゲル部の他大学、一般の方々へ対するアピールにもなっているようです。また、メーリングリストも開設いたしました。多くのOBの方々に参加していただければ有用な情報の資源になる可能性を秘めています。詳細はホームページをご覧ください。ありがとうございます。

2001年度はOB会活動で大きな行事などはありませんでしたが、着実に前進した1年だったと思います。現時点の問題点としては、OB会事務局・ホームページについて、現役側で本部と工学部の情報交換が十分でないことです。この点について、4年生同士もっと話し合っておくべきでした。

OB会が発展しているので、現役部員も負けずにがんばって欲しいと思います。OB会、現役ともに、山口大学ワンダーフォーゲル部の発展を願います。それでは、1年間どうもありがとうございました。

2001年度OB会事務局担当：崎間公久（本部第40期）

2 会長より

Renewalしてスタート
～まず、東京で支部発足とOB会総会開催～

OB会長 末 國 弘 司

また、夏が巡ってきました。暑い盛りとなりますが、OB諸氏はいかがお過ごしでしょうか。現役部員は夏合宿の準備に張り切っています。過ぎ去りし日々が思い起こされ、懐かしくも、また青春時代のほろ苦さが沸き立つ季節でもあります。

ところで我々OB会も、去る1月26日の総会をもって、新しくスタートすることとなりました。ここに、新体制の内容とその企図するところを改めてお知らせしておきたいと思っております。

1. 何が変わったか。

1 工学部OB会を統合。

経緯についての詳細はここでは省略しますが、工学部OB諸氏の圧倒的な賛同が得られ、本部OB会においても異存はなく、OB会は一本化することになりました。これまでにOB間では出身学部の垣根を越えて交流を図っている地区があり、統合は現実的な当然の流れかと、思います。

「期」の数え方については表示方式が本部と工学部では発足の経緯もあって異なるがOB会統合を機に統一が望まれる等、その他にも詳細はまだ未定の部分がありますが、おいおいに決めたいと思います。

2 会員資格の厳密化。

従来は、ワングルを卒部すれば自動的に永久会員になっていましたが、圧倒的な人数が幽霊会員である現実に異論が出て、組織を引き締めフットワークを良くする意味合いもあり、従来の「自動的」ではなく「意思表示」をもって会員と認定することにしました。

「意思表示」の手段として、「会費の納入」を採用しました。現会員でも会費が切れれば督促し、尚且つ納入がなければ、自動的に会員資格を喪失します。ただし、納入があればまた復活します。この辺りの出入りは自由にしました。

また、山大ワングルに一度でも在籍の経験があれば（途中退部者でも）、意思表示があれば会員になれます。

「OB通信」はこれまでは全員に発送していましたが、

今回をもって全員への発送は打ち切り、会員にのみ送付します。

OB通信が届かなくなるとOB会との縁が切れたように感じられるかもしれませんが、決してそのようなことはありません。今は会員ではないOBも、意思ひとつでいつでも会員になれます。我々はそれを待ち望んでいます。OBが会と、また相互に疎遠にはならないことを祈念しています。

OB会への連絡は、事務局は年々変わりますが、会長・副会長の住所は変わりません。また山口大学ワンダーフォーゲル部気付OB会宛でも届きます。インターネットを利用されている方は、ワングルのHPをぜひ覗いてみて下さい。

3 支部の結成と活性化。

会として、会員間の交流の活発化を推進します。そのためにまず、支部を多く結成し支部内での交流から始めたいと考えています。

東京では以前からOBの交流が持たれており、この度在京OBの賛同を得ましたので、まず東京支部を立ち上げることにしました。10月5日に総会と東京支部発足を行います（詳細は別掲）。多くの参加を希望します。

4 新会則を決定。

以上の事項を推進するために、OB会則を決定しました。これまで会則は全く無かった訳ではありませんが、有名無実に等しいものでした。従って新しく制定し、従来の会則に代えて発効させました。

但し、その内容は概略的なものに止めてあります。総会でも説明しましたが、あえて、意図的に穴を開けてあります。完璧な内容にすることはさして難しい事ではありませんが、実情と会則との乖離があまりにも大きい結果になるであろうと、予測できるからです。まず行動し、結果を積み上げていき、並行して会則も整備したい、そんな方針からです。

2. 今後の運営について。

1 基本的な方針。

会則に謳った通り、まずは会員相互の親睦と交流を促進することであろうと、考えています。また現

役部員への支援もありますが、それらを成すにはまず、OB会自体が結束しネットワークを軽くしておく必要があるでしょう。そのために、あらゆる手段を講じたいと考えています。

2 支部の結成。

順次支部を結成しネットワークをOBのいる所全て、全国に拡大することが目標です。当面は関西、九州あたりに結成できれば、と希望しています。それぞれの地区で会員の交流が活発になれば、支部は結成出来るでしょう。それから支部間の交流へと、広げていきたいものです。底辺が広がり、固まらなければ、会の発展はあり得ません。

3 会費について。

当面は、本部会費に一本化します。支部への援助も検討していますが、まだ正式決定には至っていません。必要があればその都度支出する方針で、当面は運営してみようと考えています。

ただ、さし当たって経常的な経費としては、OB通信発行に伴うもの、OB総会に関連するものになるでしょう。

4 遭難対策費について。

従来、遭難対策費の意味合いを持たせて、OB会費を積み上げてきました。しかしながら、現実には万一現役部員の合宿等での遭難があったとしても、OB会がどこまで動けるのか、甚だ疑問があります。救助・捜索隊を派遣できるだけの人的・技術的・時間的なものを持っているのか、ということです。まあ、留守部隊の世話をするのがやっとなでしょう。

実際、経費面でOB会がどこまで負担すべきか、という疑問があります。基本的には保険制度の利用を考えるべきであり、OB会としてはOBが出動する際の費用をその範囲内と考えたく思います。OB会の団体保険はいずれ必要になるかもしれませんが。

従って、遭難対策費としての積み上げはせず、当面は予備費として計上しておきたいと思います。

5 OB総会について。

できれば山口を離れて、各地で開催したく思います。支部が結成されていなくても、会場設営に協力してやろうというOBがいれば、可能です。積極的に挙手されることを希望します。

従来、4年生部員の追い出しコンパに合わせて、総会を持ちました。まあ、事務局に全て任せていたのですから、自然の成り行きでしょう。それはそれで全く無意味ではなく、山口近辺のOB諸氏の会合の機会として、別の意味合いを持たせられます。そこで山口外で総会を持って、従来通りに会合を持ちたいと考えています。つまり、山口外で総会を開催した年は「山口部会」として、もし山口外での総会が持てなかった年は正規の総会として、企画します。

6 OB通信について。

従来通りに発行します。内容は、現在はOB会の連絡事項や現役部員の合宿報告が主になっていますが、できるだけ魅力的な会報になるよう、順次再検討していきたいと思います。但し、内容の固定はせず、柔軟性を持たせたいと考えています。

現在、ワングルのホームページにOB会も便乗しています。OB諸氏がどれくらいアクセスしているのか分かりませんが、OB会の情報はOB通信に先駆けて、HPに掲載していきます。ご利用をお願いします。

3. その他。

1 OB会の名称・ワッペンの募集。

以前に募集をかけましたが、その後応募がなく、改めて募集します。

名称は、「山大W.V.OB会〇〇」、あるいは「山大W.V.OB〇〇会」の形が良いかと思いますが、他に良案があれば出して下さい。〇〇の部分を考えて下さい。ワッペンは、名称に合わせて同時応募が望ましいのですが、良案がなければ名称決定後に、改めて募集します。

名称・ワッペンのいずれにも、（豪華な？）賞品を用意します。

2 現役部員の減少について。

時代の流れかもしれませんが、新入部員が減少の傾向にあるようです。OB会を継続し発展させる為にも、部員の減少を食い止めるべく、OBのノウハウを動員すべき時かもしれません。諸氏の提言をお待ちします。

……では、東京で会いましょう!!

OB会会長：末国 弘司

3 2002年度OB総会について

今年度OB総会は東京で開催されます。詳細は別紙をご覧ください。別紙にも書いてありますが同封のはがきに参加、不参加等、必要事項をご記入のうえ **8月26日必着**で、41期副将 徳永仁亮宅へご郵送ください。

4 OB会会則

平成14年1月26日に行われた昨年度のOB総会で会則のほうが正式に承認されましたので再度確認のためご一読願います。

(名称)

第一章 本会は山口大学ワンダーフォーゲル部(略称 Y.U.W.V.OB会)=仮称=と称する。

二 事務局は山口大学ワンダーフォーゲル部内におく。

(目的)

第二章 本会は会員相互の親睦を図り、山口大学ワンダーフォーゲル部の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第三章 本会は第二章の目的達成のために次の事業を行う。

- 二 会員相互間の親睦に関すること。
- 三 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する援助、指導助言等。
- 四 会報及び会員名簿の発行。
- 五 その他本会の目的達成のために必要と認められる事業。

(組織)

第四章 本会の会員は次の通りとする。

二 正会員 山口大学在学中に山口大学ワンダーフォーゲル部に在籍した経歴を有し、且つOB会に入会の意志を表明した者

三 準会員 山口大学体育会ワンダーフォーゲル部員
山口大学工学部学友会ワンダーフォーゲル部員

四 正会員たる有資格者の入会及び脱会は自由とする。入会の意志表示は会費の納入をもってこれに代え、脱会はその意志を表明で認め、総会に報告する。

第五章 正会員は次の場合、その資格を喪失する。

二 会費滞納者には半期(半年)毎に督促状を送付し、督促状三回をもって自動的に正会員の資格を失う。

但し、再度入会の意志表示があった場合はこれを認める。

三 会員としてふさわしくない行為のあった者

第六章 本会には次の役員を置く。役員任期は二年とする。但し再任は妨げない。

- 二 会長 一名
- 副会長 一名
- 支部長 各一名
- 会計 一名
- 監査 二名
- 事務局長 一名

三 会長は会を代表し会務を総括する。

四 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。

五 支部長は各支部を総括する。各支部はその必要に応じて幹事等の役員を置く。

六 事務局長は山口大学ワンダーフォーゲル部の直前主将が務める。

但し、直前主将に支障あるときは直前の副主将または直前主将が指名する者がその任に当たる。

(総会)

第七章 総会は次の通り開催する。

- 二 定期総会は年一回とし、必要に応じて臨時総会を開催する。
- 三 総会は会長が招集する。
- 四 総会への出席は委任状をもって代えることができる。
- 五 議事は総会の出席者(委任状を含む)の過半数で議決する。

(会計)

第八章 本会に会計を設け、会計及び寄付金、その他事業収入をもって会の運営費に当てる。

二 正会員の会費は年二千円とし、五年単位の一括納入を認める。

三 寄付金は一口千円とし、常時受け付ける。

四 会計報告は監査報告と併せ、年一回定期総会で行う。

第九章 本会には別会計として遭難対策基金(仮称)を設ける。

二 遭難対策基金には、OB会会計から支出し積み立てるものとする。

三 遭難対策基金の支出は会長が判断し、できるだけ速やかに会員に報告する。

(その他)

第十章 本会則は総会出席者の三分の二の賛成を得て改正することができる。

第十一章 本会則は平成13年1月1日をもって発効する。

付則 本会則の発効をもって昭和43年12月制定のOB会則はこれを廃棄する。

5 OB会費

2002年度の会費の納入をもってとりあえず会員が確定されます。2002年度分の会費を払われていない方は会員ではなくなり、次回からOB通信が発送されず、再度の納入をもってまた発送が再開されます。

下記の方は一括納入されており、今年度（2002年度）分のOB会費を払っていらっしゃるため振込み用紙を同封しておりせん。（）内の数字はその年度分まで会費を払われているということです。それ以外の方は2002年度以降の会費を払っておりませんので振込み用紙を同封しております。「5の会費振込みについて」をご覧ください。

工学部のOB会費については、昨年度のOB総会で入金開始時期が2001年度から、と決まりましたのでご了承ください。

また（2005.5）などの（0.5）というのは2005年度分は払われており、2006年度分の2000円のうち1000円分だけ払っている、ということです。

6 会費振り込みについて

今年度OB会費を納入されていない方は下記へ納入して下さいますようお願い申し上げます。同封の郵便振込み用紙をご利用ください。

郵便局：01530-0-16050
山口大学ワンダーフォーゲル部

また、会費納入は1年分納入、5年分一括納入のどちらかで御支払い下さりますようお願い申し上げます。

1年分会費・・・・・・・・・・2,000円

5年分一括納入・・・・・・・・10,000円

※会費を口座に振り込んでくださる際、口座引き落としにされると当方に明細書は届くのですが、振り込まれた方の御名前が通知されず、当方で確認が取れません。払込用紙を使って振り込んでいただくと、その払込用紙のコピーが当方に届きますので、御手数ですが必ず払込用紙を使って会費を納入して下さいますようお願い申し上げます。■

7 2001年度会計報告

2001年度分納入会費	本部	234,000円
	工学部	64,000円
	合計	298,000円

2001年度支出	OB会印鑑	2,625円
	OB通信第一号発送関連費(7月)	122,096円
	OB通信第二号発送関連費(12月)	112,556円
	OB通信二号製作協力費	18,320円
	OB総会	3,116円
	支出合計	258,713円

年度内の差額 39,287円

OB会費総額は2002年3月31日付けで123万67円となっております。

また昨年度のOB総会で本部第四期の端本 義夫氏と第10期の山本 充二氏が監査に決まり、

2002年6月12日に監査をしていただき、承認していただきました。

8 インターネットを利用したOB会活動

◆山口大学ワンダーフォーゲル部ホームページについて

HPを立ち上げた前管理人の崎間公久氏（本部第40期）のあとを引き継ぎ、現管理人の藤井です。あまり更新もされておらず怠惰な管理人ですが、掲示板はしっかり働いておりますので思い出したときにでもご覧ください。

閲覧方法は代表的なのは次の3つです。

- ・ アドレスにURLを打ち込む。
- ・ 検索サイトから探す。
- ・ お気に入りから飛ぶ

表紙に書いてある通り、URLは <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/> です。wwwを *stu* に変えても同じです。検索サイトからは、「Yahoo!」「Google」から「山口大学ワンダーフォーゲル部」のキーワードで一発ヒットすることを確認しています。自分のパソコンで見えていらっしゃるのであれば、ツールバーの[お気に入り]-[お気に入りに追加]でお気に入りに追加することで、次からは簡単に見ることができます。

また、昨年つけられたOB会用の掲示板も活用されたら、と思います。場所は一番上のページから[OB会]-[OB会掲示板]です。掲示板にはどなたでも書き込みできますので、メインの掲示板ともどもご利用ください。

また、OBの近況報告ではちよくちよく書き込みがなされているので、OB通信に転載しますのでこちらをあわせてご利用ください。■

◆EメールでのOB通信発送

昨年からEメールでのOB通信の発送を行ってまいりましたが、今回はまことに勝手ながら都合によりすべて郵送での発送にしました。次号からまたEメールでの発送を行いたいと思いますので、新たにEメールでの発送を希望される方は、事務局まで (tabidori@yamaguchi-u.ac.jp) ご連絡ください。

* すでに希望されているかたはご連絡する必要はありません。

現役部員近況報告 <本部編>

1 2001 年度春合宿報告

奄美大島 Road Wandering Party

3/1~3/8に奄美大島で春合宿を行ったので報告いたします。ロードを歩いて島を縦断するというロードワンデリング形式の合宿は初めてだったので最初はとても不安でしたが、天気にも恵まれノー沈で全行程消化することができました。

AP(3/1)

出発の朝、山口は霧に包まれていた。まだ薄暗い中、湯田温泉を後にする。これから始まる合宿への期待に胸ふくらますアプローチ…のはずが、思わぬアクシデントにより不安の渦に呑み込まれてしまった。濃霧による電車の遅れ。一向に進まない電車の中で、背中を冷や汗が一つと流れる。予定より1時間遅れで博多駅に到着。ダッシュでバス乗り場へ。高速バス発車10分前であった。

15時に鹿児島到着。コンビニで今日の夕食と明日の朝食を買い、鹿児島新港へ移動。ハラハラドキドキのアプローチだったが、何とか全員無事フェリーに乗ることができた。さあ、16時間の船旅を終えるといよいよ合宿スタートだ！

1日目(3/2)

朝7時、フェリーの中で起床。10時に奄美大島南部の古仁屋港に到着。夏のような暑さに胸が高鳴る。港近くの駐車場で昼のエッセンを食べ、いざ出発！南国の雰囲気漂う町並みをしばらく行くと、私たちの目の前にエメラルドの海が現れる！今までに見たこともない海の色に、P-men 7人で感動。小さなアップダウンを繰り返し、早くも足の裏が痛み出す。今日の行程は11km。

テン場のヤドリ浜には、地元のおじさんがテントを張っていて、古仁屋から歩いてきたのだと言うととても驚いていた。南の島の天気は変わりやすい。夜は小さなスクールが来た。まだまだ始まったばかり。明日はどんな旅が待ち受けているのか…。波の音と虫の音を聴きながら、眠りにつく。

2日目(3/3)

今日は長丁場である。昨日の倍の22kmを歩く。まず小さな峠を越えて島の東側に出る。朝風の太平洋を右に見ながら海岸線を歩く。アップダウンが激しい。海岸線が終わると峠越えに突入！容赦のない登り坂が続く。太陽がアスファルトに反射しとても暑い。途中道路脇でエッセンをとる。今回、ロードワンデリング合宿ということでエッセンの軽量化に努めた。重くなりがちな昼のエッセンにカロリーメイトやコーンフレークなど軽いものを取り入れ、4日目以降のエッセンを全て山口から現地に送ることにした。

ちょうどエッセンが終わったとき、私たちの前にトラックが止まり、地元の方がタンカン（みかんのようなもの）をくれる。私たちが古仁屋から歩いているのを見て追いかけてきてくれたのだそう！奄美の太陽をいっぱい浴びて育ったタンカンは、甘くておいしかった。

今日のテン場はサーファーの海、嘉徳海岸（元ちとせの故郷でもある！）。近所の方の話では、年間通して東京や大阪からたくさんのサーファーが訪れるとのこと。今日も10数人のサーファーがビッグウェーブを待っていた。長丁場を終えたP-menは疲れ果てて砂の上に寝転ぶ。が、そのうち起き出して野球を始める。今日は奄美の人の温かさに触れた1日だった。ロードワンデリングの良さはこういうところにあるのだと思った。

3日目(3/4)

サーファーの海を後にして、さっそく峠越えに入る。今日は集落を通らずひたすら林道を歩く。ハブの

恐怖と戦いながら、亜熱帯の森の奥へと進む。ロードといえどまるでジャングルを歩いているかのような迫力。約400mアップとだけあり、展望が開けると今度は山の上にいるような高度感。登りがあれば当然下りがある。下りは足の痛みとの戦い。1本とるごとに青竹を踏むPL…。

テン場の海水浴場は残念ながらコンクリートで埋め立てられており、ショックを受ける。大きな松の木の下にテントを張り、PLとSLの2人で郵便局にエッセンの小包を取りに行く。4日目から5日目までのエッセンが届いていた。

堤防に座り、P-menと語り合う夕暮れのひととき…。普段の生活では恥ずかしくて言えないセリフも、合宿では言えてしまうから、不思議だ。

4日目 (3/5)

昨夜雨が降り今日は沈かと思ったが、朝には止んで無事出発。まだ暗い中の1本目は恐ろしく沈黙だった。懐電行動は眠気を誘う。夜空の北斗七星が私たちを見つめている。ようやく明るくなった頃、干潟にマングローブが現れ始める。霧が干潟に揺らめきとても幻想的。マングローブを見下ろす展望台で記念撮影。5分ほど行くと道の駅がありトイレ休憩をとる。今日はみんなおなかの調子が良すぎるみたいだ…。時刻は7時半、ちょうど小学生の登校時刻。「7人でどこまで行くの?」「何を背負ってるの?」と興味津々に話しかけられる。その人なつっこい笑顔に、しばし足の痛みを忘れる。

集落が終わり、地獄の峠越えに突入!昨夜の雨で道路が濡れ滑る、滑る。食欲旺盛なP-menとだけあり行動食はものすごい勢いで減っていく。早くも完売。林道を歩いていると、遠くから狩猟の音が響いてくる。鉄砲の弾が飛んできたらどうしよう、という余計な心配をしつつ峠を下りる。

ハイビスカスの咲き誇る摺勝集落では中学校の窓から男の子たちが「がんばれー!」と手を振ってくれた! 私たちも手を振って答える。テン場の小和瀬キャンプ場手前の城集落には移動商店の車が止まっており、宣伝用の音楽を流していた。小さな集落がたくさん点在する奄美では大きなスーパーがない代わりに、こうして移動商店がまわっているらしい。

テン場はまるで映画に出てくるような広い海岸。アダンの緑と砂の白、海の青と空の青。素晴らしいテン場だ! ギラギラ照りつける太陽の下でサッカーをするP-men。どこかでサッカーボールを拾ったらしい。海の向こうに昨日のテン場が見える。あの岬からあの山を越え今ここにいることが、信じられなかった。みんなよく歩いた。9時の就寝まで砂浜で遊ぶ。日が傾き始めると、潮が少しずつ満ちてきた。砂にかいたメッセージはあっけなく波に消されてしまった。P-menと砂に座り、スピッツのロビンソンを歌う…。合宿も後半戦に入る。早くゴールしたい気持ちと、ずっとこうやってみんなと一緒にいたい気持ちが入り混じった複雑な気持ちで、シュラフに入った。

5日目 (3/6)

前線と台風の影響で徐々に天気が崩れ始めた5日目。強風により朝の出発を遅らせる。今日は短めの12km。昨日の暑さはどこへやら、時々小雨がばらつき肌寒い。林道途中で古びたトンネルがあり、いかにも“出そうな”雰囲気。車の気配なし。異様な静けさの中、私たちは足早にトンネルを抜ける。

林道が終わるとテン場の小湊まで平坦な道が続く。いくつかの集落を抜け12時前にはテン場に到着。すぐ後ろに福祉専門学校が建っており、砂浜をお年寄りの手を引いて散歩する学生の姿が見られた。今日は6日目と7日目のエッセンが届く予定だったのでPLとSLで取りに行く。

今朝のテント撤収でポールが折れたらしく、設営はひと苦勞。やっとなったテントに入り、今日1日の疲れをとるべくメツチェン同士のマッサージ大会が始まる。エッセンのビーフシチューと恒例SLがすりが終わるとさっそくトランプ大会! 罰ゲームはワングル定番のとうがらし! 空は厚い雲に覆われ台風の進路が気になるところ。台風エスケープの夏合宿を思い出す。

6日目 (3/7)

今日は最長の24km! 疲れがたまってきた6日目だけに、みんなが調子良く歩けるか心配だった。暗い小湊集落を出発。いきなり峠越えで朝1本目の登りはとてもきつかった。地図にない新しい道路ができていたのでそこを通り崎原集落へと向かう。名瀬市とつながる道路らしく、出勤の車と数台すれ違った。だんだん空が晴れてきて、心地よい風が吹き始める。しかし台風の影響で気温は低め。崎原集落

は海を見下ろす崖の上にあり、昨日のテン場がよく見えた。太平洋から太陽が昇り始める。アップダウンを繰り返して、誰もいない小さな港に到着。

港から砂利道を行くと工事現場に出る。山を切り開いていた。何か目的があるのだろうが、少し心苦しかった。P-menの1人が足の痛みを訴える。甲が大きく腫れていた。疲れをとるための晴れ沈を考える。

地図を見るとついに奄美大島北部に突入！南部とはひと味違った雰囲気が漂い、車通りの多い開けた集落が続く。土産物屋やレストランが目立ち始める。サトウキビ畑を抜け、テン場の手広海岸に到着。足の痛みを訴えたP-menは元気を取り戻した様子。晴れ沈は必要ないと判断。ここも嘉徳海岸と同様サーファーの海。女性サーファーもいた。とてつもなく広い海岸だったので、テントを張るポイントを決めるのにひと苦労。海岸沿いに建つ小さな旅館の水を分けてもらうことに。旅館のおばさんは7人分のポリタンクいっぱいに入れてくれた。ハマヒルガオの咲く一帯にテントを張っていると近所の方が来て、「若い頃ワシも君たちのようにテントを担いで歩き回った」と思い出話をしてくれた。

最後の夜。トランプ、マッサージ、会計がすり、PLがすり。そして星空の下で愛について語り合う…。沖には電飾をまとった豪華客船が止まっている。流れ星が流れた。…合宿が無事終わりますように。

7日目 (3/8)

合宿最終日。朝5時、テントから見上げた空は嬉しくも悲しい星空。最後の朝食、最後の撤収、最後のパッキングを終え、あやまる岬目指しいざ出発！今日はアップダウンのない最も楽な行程である。山がちな中南部に比べ北部は広々とした景色が広がる。右に太平洋、左にサトウキビ畑を見ながら歩く。干潮とともにリーフが姿を現す。奄美の玄関口・奄美空港を過ぎ、“↑あやまる岬 2, 7 km”の看板が現れるとラストスパート！ああ、本当にもう終わってしまうのだと実感。15分の休憩中に交わすたあいのない会話が、どれも貴重に思える。ラスト1本、弱音を吐かず頑張って歩き続けたP-menたち、その後ろ姿をととても愛おしく思った。

目の前に、群青色の海へこんもりと突き出たあやまる岬が近づいて来る。ソテツの群生の中を通り、岬の木段を上がっていく。6泊7日、120 kmの道のりを歩き、今、ゴールのあやまる岬に到着。青い空と水平線をバックに記念撮影。潮風が汗を乾かしていく。7日間おつかれさま！奄美大島春合宿、無事終了！！

現在はもうワンゲルにいませんが、「私が3年になったら奄美の春合宿を立てたい」と言ったP-menがいました。近年、奄美大島での合宿が行われていなかったもので、資料が少ない中準備を進めていくのは大変でしたが、私がPLとして合宿を立てることで後につながってほしいと思いました。また、別のP-menが、2日目の行程中にタンカンをくださった御夫妻に御礼を言いたいと送った手紙がきっかけで、現地の新聞に我が奄美Partyが紹介されました。1度きりではなくこうしてつながりがもてたことを嬉しく思います。山大ワンゲルに奄美大島合宿が引き継がれていくことを願っています。

最後に、この合宿を立てるにあたって多くの助言をくださった先輩方、同期、そして一緒に歩いた6人の素晴らしいP-menに感謝します。ありがとうございました。

PL：吉村 英子

コースタイム

1日目 古仁屋 (11:15) → 清水 (11:51/12:05) → 蘇刈 (13:32/13:50) → ヤドリ浜 (14:20)
計4本 2 : 20 11 km

2日目 ヤドリ浜 (5:23) → 蘇刈 (5:55/6:08) → 阿木名 (7:52/8:10) → 嘉徳海岸 (12:15)
計7本 4 : 36 22 km

3日目 嘉徳海岸 (6:55) → 市海水浴場 (11:57) 計6本 3 : 07 13 km

4日目 市海水浴場 (4:55) → マングローブ展望台(7:15/7:30) → 道の駅大島住用 (7:36/7:55) →
小和瀬キャンプ場 (13:07) 計10本 5 : 1 1 2 3 km

5日目 小和瀬キャンプ場 (7:15) → 朝戸(9:45/10:00) → 小湊海岸 (11:35)
計5本 2 : 5 8 1 2, 5 km

6日目 小湊海岸 (4:50) → 港 (7:52/8:07) → 龍郷町役場 (10:42/11:30) → 手広海岸 (12:40)
計10本 5 : 4 2 2 4 km

7日目 手広海岸 (6:45) → 用安 (7:22/7:37) → 奄美空港 (9:08/9:30) → あやまる岬 (11:20)
計5本 2 : 5 8 1 5 km

6泊7日 計47本 26 : 5 2 1 2 0, 5 km

☐ 霧島・開聞 Party

3/21~3/28に春合宿を行いましたので報告いたします。最初に高千穂峰をピストンし、えびの高原へ縦走した後に白紫池、六観池、大浪の池などの池をめぐるしました。計画していた開聞岳にはいけませんでした。夏とは違った春の山を経験でき、有意義な合宿だったと思います。

AP(3/21)

湯田温泉から小郡までは合宿では毎回乗った山口線だ。そして小郡からは久々の新幹線、やっぱり速い。博多駅を出てすぐ傍のバスセンターへ。そこから高速バス、12時半には西鹿兒島駅前に到着、さすが高速。日豊本線に乗って霧島神宮駅で降りたらタクシーで今日のテン場（明日の夜も泊まるけど）高千穂河原キャンプ場。さすが標高約1000メートル、結構寒い。雨は止んだし、明日は高千穂峰へ行けるかなあ。

1日目(3/22)

朝から雨、早々と沈を決定。午前中はテントの中でゴロゴロ。午後からはビジターセンターに行って暇つぶし。霧島山系の地形や生息する動物のことを説明した展示があってそれを見学、日本百名山のビデオも観賞。明日は高千穂の峰へ行くぞ。

2日目(3/23)

今日は晴れだ！ちょっと風が強いが。高千穂峰へ向けて出発。最初は周囲に木々が生えた整備された道に行く。木々の合間から風が吹く、強いなあ。さすが火山、登るにつれて足元には石がゴロゴロして周囲の木々は減っていく。20分も歩くと周囲に木々はない、これから本格的な登りだと思いう間もなく強風だ！！風にあおられて登れない。なんとか木々のある所まで戻って待機。他の登山者達も登っていくが強風で進めなくなり下山していく。少しして下山を決定。結局、今日は沈。明日こそは高千穂峰へ行く！

3日目(3/24)

今日は晴れで風も強くない。再び高千穂峰へ向けて出発。昨日待機した所を過ぎ、足場の悪いガレ場を登って行く。1本で御鉢に到着、見事な火口だ。火口壁を歩いて、ガレ場の急登を越えると高千穂峰ピーク！！ガイドブックにあったように天の逆錐が刺さっている。さすが天孫降臨の地、寒い！急いで昼食を取って下山。明日は縦走、天気は大丈夫かなあ。

4日目(3/25)

ちょっと曇ってはいるが雨は降っていない。えびの高原へ向けて出発。まずは中岳、何の変哲もない丘だ、振り返れば高千穂峰が聳えている。次は新燃岳、火口の池がエメラルドグリーンでとてもきれいだ。獅子戸岳を過ぎ韓国岳へ行く。心配していた雪??じゃなく小雨が降ってきた、急がねば。いくつかの他大学のパーティーとすれ違ったが意外と女性の比率が高い。本格的な登りになると、足元がぬかるんで滑る、滑る、滑る。やっとの思いで韓国岳だが、霧で展望は全くない。一踏ん張りして下山。テン場はえびの高原キャンプ場。明日からはサブザックで池めぐり。

5日目(3/26)

今日は池めぐりプラス甌岳、硫黄山。ちょっと登った上から見る池、下って岸から見る池はいいものだ。そして甌岳。最初は樹林帯の中の道に行く、まるで樹海を思わせるようだ(実際に行ったことないけど)。意外ときつい急登を越えると甌岳ピーク??一応ここに標識があるが、三角点が火口を横切った向こう側にあるからちょっと下って火口内に行く。火口内は霧がかかっているせいもあって神秘的だ、しかし三角点はブッシュの中で展望もないつまらない所だ。急いで下山して今度は硫黄山、かなり観光地色が強い所だ、写真を撮って、遊歩道を通って下山。今日の行程は終了。

6日目(3/27)

朝は雨、沈を決定。午後からえびの高原のビジターセンター、土産物屋へ行って時を過ごす。土産も買ったことだし、明日開聞岳へ向かうか大浪池へ行って合宿を終了するかを決めなければ。予報を聞くと、明後日確実に雨が降りそうなので、明日大浪池へ行って合宿を終了することを決定!!

7日目(3/28)

今日は春合宿最後の行程、大浪池めぐり。火山壁まで登り、池を一周するように火口壁を歩いていく。絶壁から望む池はすごく迫力がある。半周した所で岸へ降りてみる、近くで見る池もまたすごい迫力だ、大きな池だ。再び火口壁を歩いて下山して2001年度春合宿、自分にとって最後の合宿を終了。

パーティー行動を含めて、自分自身の反省点は多々あります。この反省を山大ワングルで再びPLになることはありませんが、これからの自分の人生において役立てたいと思います。

また、今回の合宿では計画していた開聞岳には行けませんでした。実際に行った霧島で経験できた春山の寒さ、天候の変わりやすさなどはこれから合宿計画を立てる後輩たちに参考になればと思います。

最後になりましたが、この霧島・開聞の合宿を計画するにあたって、多くの助言や励ましをくださった先輩方に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

PL : 徳永 仁亮

コースタイム

(1日目) : 沈

(2日目) : 沈

(3日目) : 高千穂河原 (8:38) → 御鉢 (9:32/9:45) → 高千穂峰 (10:14/11:05) → 高千穂河原 (12:22)

計4本 2 : 27

(4日目) : 高千穂河原 (6:00) → 中岳 (7:22/7:35) → 新燃岳 (8:05/8:18) → 獅子戸岳 (9:02/9:15)

→韓国岳 (11:52/12:05) →えびの高原 (13:22)

計9本 5 : 3 3

(5日目) : えびの高原 (5:55) →白鳥山 (7:00/7:05) →六観池展望台 (7:38/7:50) →甑岳 (9:07/9:17) →硫黄山 (11:15/11:34) →えびの高原 (13:37)

計10本 4 : 0

5

(6日目) : 沈

(7日目) : えびの高原 (6:00) →大浪池休憩所 (8:16/9:12) →えびの高原 (10:41)

計5本 3 : 0

6

総コースタイム 6泊7日 (3沈) 総計28本 15 : 11

2 41期執行部を終えて

今年の3月をもって第41期執行部のすべての行事が終了し、4回生として現役の活動を見守る立場となりました。

ただただ後輩達にワングルを楽しんでもらおうと、ワングルという部活に入ったことを楽しんでもらおうと、この1年ががんばったつもりです。あれよあれよという間に迎えた夏合宿、両パーティーともエスケープに終わってしまった夏合宿。自分の中の何かが崩れ落ちた気がしました。あれだけががんばっても結局こんな結果か、と。1年生に対し申し訳なく思いました。それでも1人がやめただけで残りはみんな残ってくれました。

後期に入っても久々に復活した中四、初めての試みの清掃ワンデリング、結局中止に終わってしまったものの80キロ耐久徒歩、スキー合宿などさまざまな行事がありました。そして最後の行事の春合宿(結果は各PLの報告をお読みください)。

冒頭にも書きましたが私たちは部員に楽しんでもらおうとがんばりました。しかし、今執行部をおえて思うことは本当ががんばったのか、自己満足ではなかったのか、ということです。私たちが先輩方から受け取ったワングル観、それは執行部各人で若干の差異はあろうとも、私たちはワングルに入って良かったと思ったからこそこれまで続けてきたのであり、今度はそれを後輩達に味わってもらおうと執行部を持ちました。しかし押し付けがましかったのでしょうか、独りよがりだったのでしょうか、時に不満をあからさまに漏らす1年生が多かったように思います。ワングルが与えられるものは限界があります。後輩達が何を求めてワングルを続けているのか疑問を持つこともありました。ワングルは体育会の部活であり時間もかなり束縛され、個人の時間を割かなければなりません。お金もかかります。他の体育会の部活にもいえることではありますが、部活に入っていると生活の中心が部活動にならざるをえません。そこまでしてワングルを続けるメリットがないのか、ワングルが提供できるものが時代にそぐわないのか、部員減少はとどまる気配がありません。何年も前から言われている通り、今ワングルは過渡期にあると思います。そしてそれはもうごまかすことができなくなったようです。

私たちはこの現状に目をそむけていたのかもしれませんが、私たちが愛したワングルが変わってしまうことを恐れていたのかもしれませんが。無責任なようですが後輩達には一度原点に立ち返って新たなワンダーフォーゲルを再構築してもらうことを願い、そして最後にこんな私たちを支えてくださった先輩方、やめることなくワングルを続けている後輩達に感謝の念を記し筆を置きたいと思います。

本部第41期主将：藤井 祐介

3 42 期執行部近況報告

(1) 新執行部紹介

今年度の新役員および係を紹介します。

主将、記録図書、衛生、気象、トレーナー・・・・・・・・藤田康雄（理3年）

副将、主務渉外、会計、山行技術、装備、エッセン・・多々納智（理3年）

今年度は3年生が2人と例年になく少ない執行部となりました。しかしワングルを運営するにあたり全力をもって1年間頑張る次第です。

(2) 新ワングラー誕生

今年度はオッチェン5名の一年生が入部しました。一次錬成も難なくこなした篤い一年生ばかりです。今後の活動を盛り上げていってくれることでしょうか。今年度の部員数は以下の通りです。

	1年	2年	3年	4年	計
オッチェン	5	3	2	3	13
メツチェン	0	2	0	2	4
計	5	5	2	5	総部員17名

(3) 新執行部スタート

今年度は先に申しました様に執行部2人で部を運営しています。7月に入りいよいよ夏合宿に向けてトレーニングにも力を入れて頑張っています。執行部が始まった当初はまず第一に新入生の獲得を目指しました。昨年に9名入った事もあり私達はワングルが盛り上がってくれるように今年度も新入生の獲得に奮闘しました。しかし新フェスや茶話会でもなかなか思うように入れることができず、新歓登山中止という残念なことになりました。県会の参加も新入生1名と例年にない少ない人数となりました。非常に申し訳なく思いました。その後も予定を変更し、茶話会を重ね何とか5人の新入生が入部となりました。ですが講習会やその他の行事を繰り下げることになり、部員には迷惑をかけてしまいました。山技実習も日帰りのハウベンと1泊行えなかったことが残念です。こうしたことが浮き彫りになるのは執行部として今後絶対にならないように肝に銘じております。一次錬成では上級生・1年生ともに自分の限界に挑みツワモノぶりを発揮していました。

いよいよ眼前に夏合宿が見えてきました。今年度は昨年のリベンジで再び北アルプスの双六・槍・常念を目指します。“未だ見えざる未踏の地へと我ら球となりていざ転がりはじめん”

申し遅れましたが、自分は第42期執行部において主将を務めさせて頂いております理学部地球化学科3年の藤田康雄と申します。もう一人の執行部多々納とともに部の舵取りをさせて頂いております。

部を運営していく事は全て責任を負うことです。立ち止まることはできないし立ち止まったらそこで終わりだと思えます。しかしやりとげた先には何物にも代えがたい何かがあると思えます。とにかく自信を持って頑張っていく次第です。

第42期執行部主将 藤田康雄

(4) 2002年度夏合宿コース紹介

—新穂高温泉～双六岳・三俣蓮華岳～槍ガ岳～常念山脈～上高地—

この度夏合宿におきましてPL・責任者を務めます藤田康雄です。昨年目指した峰々を遠く見ながら

惜しくも登れなかった想いを今年こそ果たそうと再び槍を目指します。コースは新穂高温泉から双六の稜線へと登り、双六岳・三俣蓮華岳をピストンした後、西鎌尾根を通り槍ガ岳に行きます。その後東鎌尾根より大天井・常念・蝶ガ岳・長堀山と常念山脈を縦走し、上高地に至ります。このコースは穂高連峰を取り囲むようなコースになり稜線からは穂高連峰はもちろん360度のパノラマが広がる壮大な景色を見る事ができ、きっと感動することと思います。

Partyは全体を2つに分け、同じコースを走ります。このような試みは初めてで不安はありますが、責任者として全員を無事下山させるようしっかりと対応していこうと思っています。Partyの団結と協力を深め合宿成功に向け邁進していきます。

PL：藤田康雄

現役部員近況報告 <工学部編>

1 2001年度春合宿報告

□ 五島列島福江島トレッキング Party

(A P)

僕ら3年にとって最後の合宿出発の日がやってきた。常盤駅で工学部の先輩方、小郡駅で本部の仲間に見送られ長崎へ向かった。長崎からフェリーで福江港へ向う中、フェリーがゆりかご状態で乗り心地はよくなかった。この日、フェリーから降りて5分歩いた所にある福江城の敷地内の外濠公園でテントを張った。夕方、少し雨がぱらついていて、夜、トイレに行く途中空を見ると雲間から星が見えた。明日は晴れることを確信した！

(1日目)

この日の天気は晴れ。まず、初めの見所である鬼岳を目指し歩き始めた。鬼岳駐車場までは登り坂があり足に負担が重くのしかかった。駐車場からサブザックを背負い、鬼岳山頂を目指した。本来なら緑の芝で覆われた美しい山であるはずがこの時期の野焼きにより山が焦げていた。鬼岳ピークからは島の景色が一望でき気分爽快であった。

鬼岳を背に次ぎはテニ場である香珠子浜を目指した。途中、牛や乗馬した家族に出会い島ならではの情景を味わった。香珠子浜までは予定より時間がかかってしまいテニ場に着くと初日にもかかわらず疲労感が大きかった。しかし、目の前のハワイアンブルーの海を見ると疲れも吹き飛び、みな約1時間春の海ではしゃいだ。

だが、この間に思いもしていなかった事件が待っていたのである。

テニ場に戻ると差し入れの袋が散乱しており、中の食べ物までが荒らされていたのである。犯人は鳥類の中でも知能が高いカラスであった。ここから数分、ワングルVSカラスの睨み合いが続いた。カラスはあざ笑うかのように飛び去っていった。美しい景色に満足して終わる日であったが、この出来事で少しブルーになってしまった。みなさんもカラスには御注意！

(2日目)

薄暗い中、波の音を背に香珠子浜を後にした。夜が明けてくると左側に朝日を浴びながら、歩き続けた。この日は一つの峠を超えることが難関であった。

この難関をワングルの根性で乗り切り、キャンプ場がある富江町に入った。富江町は、港町ならではの磯の香りが漂い、趣きのある家が連なっていた。テニ場であるさんさん富江キャンプ村は海に面した場所にあり、心地よく南国ムード溢れるキャンプ場であった。この日は天気がよく、明日もこの天気が続くことを願い就寝した。しかし、夜中雨の音で目が覚めた！

(3日目)

この日は、沈。一日中雨であった。

(4日目)

どうにか雨は止んだが、雨雲はまだ広がっていた。この日の見所は、横に広がる断崖、そして大海原を満喫できることであった。多くの島がそれぞれ独特の形をしており、自然が作り出す芸術作品を目に焼き付けた。しかし、そろそろ足取りが重くなり始めた日であり、景色を眺めながらも顔にはきつさがみられた。テン場は小さな村である太田の海辺にあり目の前には海、後ろに畑、山が広がり青と緑の色に囲まれ体、心が癒された。この場所は、今でいう癒し系であった！

(5日目)

太田を後にし、最後のテン場である玉之浦キャンプ場を目指した。前半は外海の景色を見ながら歩いたが、後半は内海の風景を目にし歩いた。内海は大きな湖のような感じであり、水面に写る風景が美しかった。長い坂を下るとテン場が見えはじめペースも速くなり、すぐテン場に着いた。この日は早く着いたのでキャンプ場でのんびり過ごすことができた。のんびり過ごしたとはいってもみな寝ていただけではあるが！

(6日目)

この日は合宿最大の見所である大瀬崎灯台へ向かった。前半は今回の合宿で唯一の山行を行いひとつの山を越えた。山を越えると、ロードに入り灯台までの案内標識に従い細い道を下っていった。灯台が近づくと辺りは断崖が数百メートルも続き自然の迫力を感じた。昔この灯台からは日本最後に沈む夕日を見ることができたらしい(沖縄が返還される以前)。このことを考えると自分たちが日本の最も端にいることを感じ、遠くの水平線を眺めながらワングルで見てきた多くの大自然を含め人間が住んでいる地球の素晴らしさを改めて実感した。

1時間半ほど滞在し、この地を後にした。キャンプ場に帰る途中長崎では有名な教会があったので少し見学し、ここで、3人同じ記念品を買った。今でも時々部員の一人が首から下げているのをよく目にする！

(7日目)

合宿最終日。この日はひたすらゴール地点である荒川温泉を目指した。かなりの距離を歩いてきたのにもかかわらず順調なペースで歩き続けた。合宿の中でも距離が長く気分的にはつらかったが、合宿最終日になると自然と力が湧いてくる。1つのことを成し遂げる達成感とそれまで頑張ってきたこと全てがこの力を導いているのだろう。カーブの多いロードをひたすら歩き煙が見えると小さな港町に温泉旅館がただずんでいた。そこがゴールの荒川温泉であった。荒川温泉に着くともうワングルとして言うことはないだろう最後の一言を言った。「ザックダウン！」そして、僕らの春合宿は終了した。

最後に、合宿の準備から共に協力し、頑張ってくれた吉田、柴崎、そして、いろいろとアドバイスをしてくださった大池さん、佐伯さんに感謝の言葉を述べ合宿報告とさせていただきます。

PL 原 和義

コースタイム

(1日目) : 外濠公園(6:05)→空港、鬼岳方面分岐(7:10/7:25)→

《サブザック行動》鬼岳駐車場(8:10/8:25)→鬼岳ピーク(8:55/9:15)→鬼岳駐車場(9:35/9:40)》

→第一集落(10:40/11:20)→馬を見物(11:25/11:30)→浜町の入り口付近(12:30/12:45)

→香珠子浜(13:30)

計 8 本 6 : 0 0

(2 日目) : 香珠子浜(5:50)→田尾(6:40/7:00) →峠の途中(8:00/8:20) →富江町(9:05/9:20)

→さんさん富江キャンプ場(10:10)

計 4 本 3 : 2 5

(3 日目) : 沈

(4 日目) : さんさん富江(6:00)→山手郷の直線(7:00/7:15) →丸子をすぎた辺(8:05/8:20)

→坂を登りきった所(9:10/9:25) →琴石(10:15/10:55) →太田の浜(11:30)

計 5 本 4 : 0 5

(5 日目) : 太田(5:45) →坂の途中(6:40/7:00) →立谷口(7:45/8:00) →戸田切(8:45/9:00)

→玉之浦キャンプ場(10:15)

計 4 本 3 : 4

0

(6 日目) : 玉之浦(7:40) →遊歩道途中(8:40/8:55) →大瀬崎灯台(10:10/11:15) →展望台(11:50/12:15)

→玉之浦(13:30)

計 4 本 4 : 0

5

(7 日目) : 玉之浦(4:00)→立谷口(5:45/6:05) →トンネル手前(7:00/7:15) →荒川郷の手前(8:25/8:40)

→荒川温泉(9:50)

計 4 本 5 : 0

0

総コースタイム : 6 泊 7 日 (1 沈) 、 2 9 本 2 3 : 1 5

うちサブザック行動 0 : 5 5

工学部第 39 期主将 : 原 和義

2 40 期執行部を終えて

早くもワングル現役としての活動が終わり、現役を後方から支える立場としてワングル活動を見守っているこの頃です。現役として日々活動していたころが懐かしく感じます。

第 4 0 期執行部は 3 年の原、吉田、2 年の柴崎の計 3 人で活動を行ってきました。工学部にとって数年ぶりに女の子が加わり、今までの男だけの部に華やかさが見られるようになりました。日々のトレーニングは、3 人が協力し夏の日差しが暑い日も、冬の厳しい寒さの中も 1 人 1 人の体力の向上を考え行ってきました。

夏合宿は、3 年の吉田が P L を務め北アルプスで行いました。合宿前の錬成が大幅に遅れ合宿出発日が何日も延び、先輩方にご迷惑をお掛けしました。

部員の体調をしっかりと把握するとともに、合宿の準備を早期に部が一団となって取り組むべきだったと反省してます。

1 0 月 は 工 学 部 主 催 の 8 0 k m 耐 久 徒 歩 の 準 備 に 向 け て い 忙 し い 時 期 で し た 。

宇部高専、県大、山大の方々に力を借り 8 0 耐成功に向け下見や看板作りに取り組みました。しかし、残念ながら生憎の天気のため中止という結果になってしまいました。この悔しさをバネに次ぎの 8 0 耐で

は、晴れることを願いつつさらによりよいものになるよう工学部一同頑張っていきたいと思っています。

また、今年の5月に行われた県内合同ワンデリングの準備が10月後半から始まりました。例年と比べ遅い時期に始めたことにより毎週のように下見に行き、開催場所としてふさわしい場を探しました。開催場所が華山と決まり本番に向けて工学部、宇部高専の1人1人が責任をもって仕事に取り組み、当日を迎えました。80耐に続き生憎の天気でしたが、参加者がみな楽しむことができたと思います。

私たちにとって最後の合宿である、春合宿は自分がPLを務め長崎県五島列島福江島でトレッキングを行いました。山と違い、ロードをひたすら歩く今回の合宿のために新しくトレーニングの方法や錬成コースを考え合宿に向けて活動に取り組みました。また、OBの大池さん、佐伯さんにいろいろとアドバイスをいただきながら、合宿成功の為に部が一団となって日々の活動に力をいれてきました。このおかげで、合宿は無事成功し多くの思い出を作ることができたと思います。そして、この合宿を終了したと同時に、現役としての活動が終わりました。

いくつかの不安を抱えスタートした40期執行部でしたが、今、振り返ると1人1人が部活に燃え、責任を持って仕事に取り組んだからこそ部活動を楽しく行え、多くの思い出を作ることができたと思います。

次ぎの執行部にはさらに充実したワンゲル生活を送れるよう部が一団となって1つ1つの活動に頑張っていきたいと思います。

3 41期執行部近況報告

(1) 新執行部紹介

第41期執行部になり早いものでもう4ヶ月がたちました。

今、工学部は4人で活動しております。1年後期から休部してましたが4月から復帰しました2回生オッチェン、高専から編入してきましたワンゲル6年目というベテランの3回生オッチェン、春休みに一人旅をして入部を希望してきた新人さんの3回生オッチェン、去年から工学部で活動してます3回生メチェンという、経験も知識も体力もかなり差のある4人です。いろいろと例年通りにはいかない事も多く事件も多いのが今の工学部の状況です。

私達は県合の準備に追われながらではありましたが、まず、4、5月で講習会を行いワンゲル活動に必要な知識を一通り復習していくことから始めました。5月25日は、常盤工業会館にて工学部新歓コンパを行い主役のオッチェン3人は、皆に祝福されながら工学部伝統の黒田節を経験しました。6月15日には本部と合同で浄水場にて山技実習をしました。そして、翌週の6月22日23日は3回生の2人にとっては初めての錬成に行ってきた。コースは水平道～東鳳便山でしたが、吉敷畑から油ノ峠で私がコースを把握してなかったためにコースを大きくそれ、部員、先輩方に迷惑をかけてしまいました。幸い、大事には至らなかったものの、深く反省しております。

今年の工学部は夜間の授業や実験などで皆の時間が合わず、トレの時間がかなり制限されてしまい夜の校内でのトレが多く体力低下が心配ですが、今ようやく実験などが終わり昼間にトレができるようになりました。これから夏合宿に向け強度を増して行くつもりです。

これから試験の時期になりますが、夏合宿に向け頑張っていこうと意気込んでいる工学部一同です。

第41期執行部主将 柴崎 洋子

(2) 2002年度夏合宿コース紹介

今年の工学部の夏合宿は、北アルプスでの6泊7日の合宿を予定しています。

1日目はあのアルプス三大急登の一つと言われているブナ立尾根を登り、烏帽子小屋まで。2日目は

烏帽子岳を往復し、三ツ岳への長い登りを行い、三ツ岳からはアップダウンの少ない稜線をたどり、野口五郎小屋へ。3日目は野口五郎岳まではすぐ、そこから真砂岳のピークを巻き東沢乗越から水晶小屋のある赤岳までは登り。水晶小屋からワリモの分岐を左に行き、鷲羽岳へ登り、三俣山荘へ。4日目は三俣蓮華岳、双六岳、双六岳小屋。5日目は、急なジグザグ道を登り樅沢岳へ。急坂を下り硫黄沢乗越に。ここから西鎌尾根を槍岳山荘までひたすら登って行く。6日目は槍ヶ岳をピストンし、飛騨乗越へ下り、大喰岳への登りに入る。大喰岳山頂は飛騨側を巻き中岳へ、その後南岳を最後に下山する。この日は槍平山荘まで行く。7日目、槍平から樹林に入り新穂高温泉まで下る。

このコースは、私の裏銀座縦走をしたいという希望と、部員の槍ヶ岳に行ってみたくらいという希望の両方を叶えたいという思いから計画しました。この夏合宿に向け、体力向上を目指し頑張っていきたいと思っています。

PL 柴崎 洋子

第38回県内合同ワンデリング結果報告

(1) 実行委員長より

今年は宇部地区主管で、5月3・4・5日、華山の野外活動センターにて第38回県内合同ワンデリングを開催しました。

宇部地区の主管ということでしたが、工学部は人数が少なく、院の先輩、高専の方々に協力してもらったので、大変な準備でした。

県合当日、不幸にも天候には恵まれず、テントの中での飲み、メインの山行は中止、小雨の中でのファイヤーとなってしまいました。

しかし、こんな状況の中でもワンゲルは熱かったです。雨の中でも参加者の皆さんは、飲んで、騒いで、語って、歌って…。本部役員一同とても嬉しかったです。

来年は、山口地区の主管となりますが、晴れることをお祈りしています。

(2) 各BLより

A

今年の県合は、あいにくの雨でした。そのため、今回メインとされていた山行が中止となってしまいました。不安だった仕事がひとつ減ったとはいえ、それまでの準備のことを思うととても残念でした。また、華山はとてもきれいな山なので、参加者のみなさんにぜひ登ってもらいたかったです。

というわけで、今回はひたすら飲むしかありませんでした。飲み場を盛り上げるのもBLの役目、特にファイヤーの後の盛り上がり具合はBLにかかっているとも言えるでしょう。それなのに私ときたら、体調が悪かったことも手伝ってあまり飲めなかった上に盛り上げることもできませんでした。でも皆が支えてくれて、そのことでまた「ワンゲルの仲間っていいなあ」と実感することができました。

本部の皆さん、そして他大学の皆さん、先輩に後輩、お疲れ様でした。みんなのおかげで無事BLの役目を終えることができました。本当にありがとうございました。

山口県立大学3回生 岡村 優子

B

今回県合でBブロックのブリーをさせていただいた、山口大学工学部知能情報工学科3回生、村田隆行です。今回の県合は、実行委員長や先輩方と山行や、運動会の準備をしたにもかかわらず、雨になってしまいました。テントの下でしか飲むことができませんでしたが、他大学の先輩、後輩、普段とは違う

県合独特の雰囲気の中で、たくさんの人と飲み交流を深めることができました。さらに途中からOBの方もたくさんこられて、さまざまな話を聞くことができました。2日目の夜には雨が降っておらず、ファイヤーはすることができました。他大学のスタンプは何度見ても面白いものでした。本部の仕事は大変ですが、これからもずっと県合は続いてほしいと思います。

山口大学工学部3回生 村田 隆行

第36回80km耐久徒歩について

80km耐久徒歩が復活し、今年でとうとう4年目になりました。昨年は雨天のため中止となってしまいましたが、一昨年は多くのワンゲル部員、OBの方々に参加して頂きとてもいい80km耐久徒歩となりました。

今年も、10月26(土)、27(日)に萩～宇部の80km区間で行います。26(土)に参加者の方々に萩市に集まっていた頂き、27(日)の深夜に萩を出発し、まずは中間地点である道の駅美東を目指してpartyごとに並んで歩いてもらいます。美東からは各自マイペースで宇部を目指してもらいます。マイペースではトップ争いも行われ自分の体力、根性をためすいい機会でもあります。80kmを通してワンゲルで培った体力、精神力を生かすとともに、更なる向上を目指してほしいと思います。また、主催者側といたしましても、80km耐久徒歩で歩くことの大切さを知ってもらい、1つの目標に突き進んでいく力というものを身につけてほしいと思っております。今年もぜひ、現役部員はもちろん、OBの方々にも多く参加して頂きたいと思います。

もう一度、ワンゲル現役時代にもどったつもりでがんばってみてはどうでしょうか。

参加される方は、10月10日頃までに工学部渉外(村田 隆行)まで以下のいずれかの方法でご連絡下さい。

OB近況報告

振込み用紙から

▼本部 15期

古谷 眞之助 現在メキシコに勤務しております。10年前よりグライダーを始め、めっきり山とは縁遠くなってしまいました。オーストラリアで300kmを飛び、昨年はアメリカで高度5000mまで上がりました。皆様のご活躍をお祈りいたします。

▼工学部 6期 YUWVのOB会も益々盛況になる様、応援いたします。小生、今年は減量をして再び山野に行きたいものです。
熊谷 忠輝

ホームページに寄せられた近況報告から

本部

▼6期

岡田 耕治

OB通信何時も有り難う！小生の女房もOBで、2部送られて来ます。別に支障は有りませんが経費節減にお役に立てばと御連絡致します。2学年後輩です。在学時は2学年違えば命令は至上でした！今は命令無視どころか反対に命令される有様です。小生と同様な環境に有る男子部員はその辺りを十分に熟慮して決断をされることを祈念致します！！

▼10期

福永 俊美

会社にてホームページを見ました。いつもOB会誌送付ありがとうございます。

▼23期

木村 忠由

この昨年4月に、4年間住んだインドネシアはジャワ島バンドン市から帰国しました。向こうの山もなかなかのものでした。私は本業以外に専門学校で日本語を教えていましたが、リュックが買える金持ち学生中心に登山がはやっていましたよ。遠い昔、春合宿で北八ヶ岳山スキー合宿をしたこともあるのですが、南国になれた体には今年の冬はこたえました。

▼40期

崎間 公久

まだしばらく山口にいることになりそうですが、一応OBです。バイト、学校と今までと何ら変わりのない生活なのであまり書くことがありません。現役のみなさんを応援しています。

工学部

▼11期

松永 烈

夏以来、走り回っている割には山にも登らず、あちらこちらの出張の機会を捉えてOB・OGの方々にお会しました。その簡単な報告です。

9月下旬の札幌での学会の前に十勝岳に足をのばしました。前日までの雪が輝く中、美瑛―十勝と駆け足登山で、前夜の白金温泉と十勝温泉の温泉巡りがメインとなりました。

単独の予定でしたが、地元（といっても山の反対の十勝）の小学校の先生と一緒に、長いアプローチを車に乗せてもらい助かりました。12月には名古屋で開催された地熱学会にかこつけて、同期の山村（工学部）、城戸（本部経済）両君を呼び出しただけでなく、2年後輩の清（旧姓田中）さんまで呼び出して、昔話に花を咲かせました。

その2週間後、少し早めの帰省を兼ね、萩維新ハーフマラソンに参加しました。何とか目標の1時間半はクリアしましたが、キツイ思いをしました。

走り終わり下関に向かいましたが、その道中、4年近く前に工学部の同期や前後数期のOB会を開いた影清洞横のラドン温泉で汗を流しました。下関に着いて、同期の石川君（吉田小学校の教頭とは驚き）や2年先輩の肥塚さんと一杯やりました。

最近では、池袋で会議があった2月28日、工学部1年後輩の香月君に声をかけたところ、幻の誕生日（彼は某年2月29日生まれ）につき合わされ、お祝い酒を強要されました。

さて、最後に、我々の研究所のHPに日本百名山の地質を紹介するコーナーが設けられました（<http://www.aist.go.jp/GSJ/Info/100mt/index.html>）ので、一度覗いて下さい。←本来これを紹介したくて筆を執った次第です。

▼13期

古田 則昭

ホームページを見て実に懐かしく感じました。現在はオートバイで北海道を中心に一人旅鳥をする事が趣味となっています。ああ・・・、山口に行ってみたい。20年以上も道場門前通りに行っていない。いつか・・・バイクで古巣の部室に行ってみよう。ア

ルトサックスを背中に背負って・・・。

▼21期

吉田 圭吾

昨年、父親が経営していた建設会社を清算し、20年ぶりに山口市に引っ越して参りました。現在、鹿島道路（株）山口営業所に勤務しております。本部と工学部のOB会が統一されたようですね。

▼38期

佐伯 英敬

ついにOBとなりました。よろしくお祈いします。僕は山大の大学院に進学しましたので、まだ山口に住んでいます。そして、まだ安対に出ており、アルプスに行く現役をうらやましく思っています。それでは。

敬称略

編集後記

2002年度のOB通信第一号がようやく出来上がりました。今年はOB総会が東京で行われるなど、会則の正式な承認とOB会員の資格の明文化により、OB会がようやくしっかりとした組織になりつつあると思います。同じ山大ワングルに所属していたという過去を共有する、さまざまな世代との交流ができて大変刺激的だと思います。また会員資格をはっきり定めたことで意識的な会員のみから構成されるOB会として活動がより盛んになると思います。

それでは東京でたくさんの方々とお会いできることを願っております。

編集：藤井 祐介